

指定校番号	28030	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	段原小学校	校長	宍戸千代香	生徒指導主事	植村和広
-----	-------	----	-------	--------	------

取組事例名 『なかよし月間の取り組み』

取組のねらい 『キーワード 異学年交流』

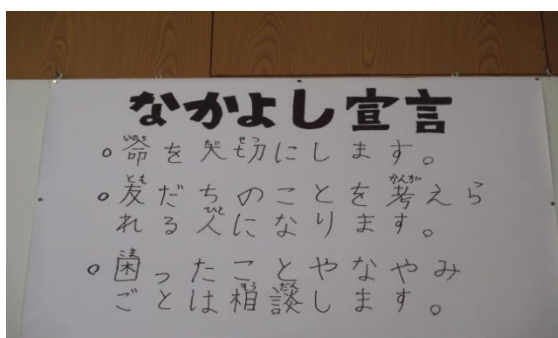
いじめのない楽しい学校づくりに向けて、児童会活動を通して児童のコミュニケーション能力を育む。

取組の具体的内容 『キーワード なかよし遊び』

1. 内容
 - ・児童会企画委員が「スーパー昼休憩」に誰でも参加できる遊びの会をすることを提案し、代表委員会で話し合う。
 - ・企画委員児童が司会進行を行う。
 - ・3年と5年，1年と6年，2年と4年をペア学年として、当日参加した児童で「なかよし遊び（多人数でできる遊び）」を行う。
 - ・「なかよし遊び」の内容は雨天時の場合や体力づくりの取組を考慮して、企画委員が考える。
2. 計画
 - 9月1日（木）委員会活動で代表委員会の原案作成
 - 5日（月）代表委員会で提案・決定
 - 6日（火）音楽朝会で提案の報告をして、児童全員で「なかよし宣言」を読む
 - 6日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）3年と5年
 - 13日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）1年と6年
 - 20日（火）なかよし遊び 長縄8の字跳び（スーパー昼休憩）2年と4年

↓

3月



指定校番号	28030	学級活動	児童会・生徒会活動	<input type="radio"/>	学校行事		別紙様式
-------	-------	------	-----------	-----------------------	------	--	------

取組の課題・創意工夫『キーワード 工夫』

- 6年生は加減したり接し方を工夫したりして遊んでいたが、1年生との年齢の差が大きいため、遊びの内容を工夫する必要がある。
- 4年生は成長過程で、まだ2年生と対等に接してしまうことが多々あるのが現状である。
- 授業時間の確保・行事の精選の中での児童会活動になるので、学校行事との調整が難しいが、年間計画を立てる段階で組み込んでいく。

取組の成果（効果）『キーワード 意欲』

- 児童会で取り組むことで、企画・運営をする児童も参加する児童も主体的に活動することができた。
- ペア学年で運動することで、楽しく体力づくりに取り組むことができた。
- ペア学年がいることで、参加する意欲が高まった。
- 1年と6年は、年度初めから年間を通しての交流のため、誘い合って参加する姿も見られた。
- 普段は遊ぶ機会が少ない低学年と遊ぶことで、高学年としての自覚を持ち、低学年を意識した声かけや接し方を身につけることができた。
- 児童アンケートの「いろいろな学年の人と仲良く過ごすことができた」は、「そう思う」の肯定的な評価が85.4%であった。

今後の展開『キーワード 継続』

- 9月の「なかよし月間」の取組からその後の「スーパー昼休憩」の取組へと継続していく方法を更に工夫していく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 目的意識』

- 高学年と運動することで、低学年は技術的に優れた上級生を目標にするようになる。
- 高学年に世話してもらうことで、低学年は自分たちもそうなりたいという憧れを持つことができる。
- 楽しく遊ぶだけでなく、異学年交流の目的意識を持たせるためには、各学級担任が声をかけたり、一緒に参加したりすることが必要である。
- 遊びの内容や場所等の配慮や工夫が必要である。(特に、暑い時期の熱中症対策)